

声を出すことの重要性について

(スポーツ鬼ごっこ女子日本代表(No. 15)、新宿スポーツ鬼ごっこ部主宰) 宮嶋 恵子

キーワード：スポーツ鬼ごっこ、声

■研究目的

スポーツ鬼ごっこにおいて、選手だけでなく応援も、音量やリズム（または単語）によっても、試合での連携に限らず動きに影響があることを数値的に調べる。

■研究背景

チーム競技であるスポーツ鬼ごっこにおいて、選手同士の声出しは連携を図るために重要であることは当たり前のことではあるが、それだけでなく動きにも変化が出て試合結果に表れることを目の当たりにした。

毎年開催されるスポーツ鬼ごっこ都道府県選抜大会で、団体加盟している東京都スポーツ鬼ごっこ連盟として東京都選抜選手の支援をしている。そこで感じるのが、年々他県に水をあげられていること。たしかに、他県の練習量やスター選手の差から来る伸び率は高く、それは環境の差でもある。一人一人の運動能力は、まだ遜色無い。しかしもう、一人一人の運動能力だけでは上位のキープも難しくなっている。立ち上がりの遅さや踏ん張り時でのおとなしさは、年々の試合結果に表れている（連続して2位止まりであったところから、今年は決勝トーナメント初戦敗退）。

他県との最も大きな差は、放つエネルギーや勢い等の、発することや表現することだと感じている。穏やかさや多様性は東京の特長で大事な面でもあるが、勝ちたくても腹に抱えた思いだけでは足りない。更に勢いやがむしゃらさを体現して外に放出することが彼らには重要だと考えた。その手段が「声」だと考えた。

ディフェンスの大人たちが前線の背中を押すような鼓舞する声、スピード感と高い音量の応援の声、これらが存分に出せた試合では、明らかに100%、120%の力が発揮されていた。元気だけでなく、プレーへの集中力も高めたのではないか。次の試合では先の試合に比べると選手も応援も声は少なく、敗退という結果に表れた。

声を出すことは誰でも出来る、全力を出し切ることはできる。恥ずかしいとかうるさいとかいうような感情で止まるのはもったいない。声を出すことの重要性を数値的に明かすことで伝え、鬼ごっこの結果に結びつけたい。また、それはただスポーツで試合に勝利するだけのためではなく、発することや表現することで新しい何かをそれぞれに手にすることが出来、楽しさをより強く深く感じるためである。

■研究方法

声の音量・リズム・単語・音質・声以外の音などと、これらに対する運動量等の数値を計測する。

■課題・展望

機材、測定、集計（協働者の大募集）